

# 三内丸山通信

特別史跡三内丸山遺跡

出土品

## 重要文化財

### 指定

「大型板状土偶」や「縄文ポシエット」などが重要文化財に!



大型板状土偶

三内丸山遺跡から出土した遺物が、新しく重要文化財に指定されることになりました。これは三月二十日に、国の文化審議会が答申したものです。

今回指定答申されたのは、平成四・五年に調査が行われた第六鉄塔調査地点と、平成四年から六年に調査した旧野球場予定地の竪穴住居跡から出土した資料一九五八点です。

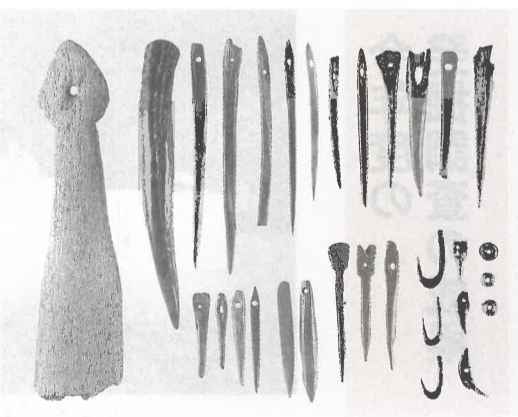
第六鉄塔地点では、縄文時代前期中頃(約五五〇〇年前)の低湿地から土器・石器に加え、骨角器・編物・木製品・動植物遺体などの有機質の遺物が多量に出土し、当時の生活や自然環境を解明する貴重な資料となりまし

た。有機質の遺物のうち、骨角器はとても良



第六鉄塔地点の発掘調査の状況

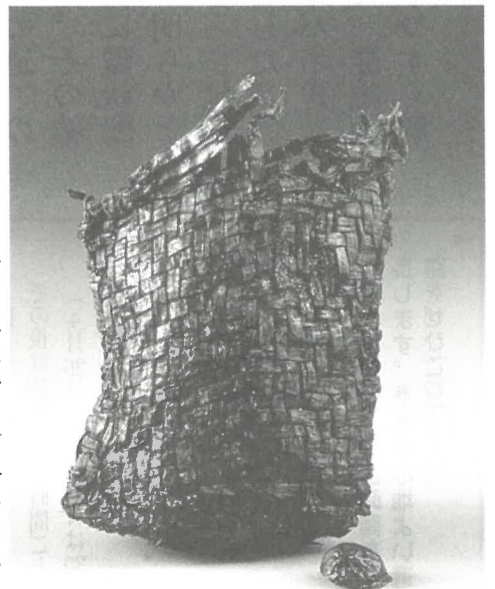
草の茎を使い、網代編みで編まれた高さ十三センチメートルほどの小さなものですが、縄文時代の編み物の技術



骨角器

す。編物の代表は、「縄文ポシエット」という愛称でよばれている籠(かご)です。

い状態で残っていました。骨角器のうち、約四分の一は針です。穴があるもの・無い物、穴の大きさ、全体の長さなど、さまざまな種類の針が数多く出土しているのが三内丸山遺跡の特徴で



縄文ポシエット

を示す貴重な資料です。

竪穴住居跡は、旧野球場予定地内で約四八〇棟が調査されています。この調査によって、三内丸山遺跡では縄文時代前期中頃から中期の終わりまで(約五五〇〇年前〜四〇〇〇年前)の各時期に住居が作られていたことがわかりました。代表的な出土品である「大型の板状土偶」は、頭と胴の部分で折れています。胴の部分は竪穴住居跡から、頭部は北盛土から出土したものを接合したものです。

今回指定される遺物の一部は、四月二二日から五月五日まで東京国立博物館で「新指定文化財」として展示されることになっています。また、青森県立郷土館で六月一日から七月二七日まで開催される開館三〇周年記念展「青森県の文化財」でも展示されます。

